

第9回（平成25年度第1回）黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 平成25年7月26日（金）10：30～12：00
- 場 所 ホテルアクア黒部
- 出席者 委員：18名、関係者：4名

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ（会長 堀内黒部市長）
- 3 経過報告
- 4 議案
 - 議案第3号 委員の変更について
 - 議案第4号 平成25年度補正予算について
- 5 協議事項
 - 協議第1号 黒部宇奈月温泉からのアクセス交通について
（地域公共交通確保維持改善事業（地域公共交通調査事業））
 - 協議第2号 にかわ観光地周遊バス運行社会実験について
 - 協議第3号 地鉄新駅について
- 6 その他
- 7 閉会

委員等名簿

区分	構成員	役職	氏名	出欠、代理出席等	備考
第6条第2項第1号	地域公共交通総合連携計画を作成しようとする市町村	黒部市長	堀内 康男	本人出席	会長
第6条第2項第2号	関係する公共交通事業者等	富山市地方鉄道株式会社代表取締役社長	桑名 博勝	専務取締役 稲田 祐治	
		黒部タクシー協会代表	神谷 尚機	本人出席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長	上野 與松	所長代理 米田 吉博	
第6条第2項第3号	関係する公安委員会	黒部警察署長	廣井 悦夫	交通課長 堀田 裕之	
	地域公共交通の利用者、市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会会長	森能 信也	(欠席)	
		黒部市民生委員児童委員協議会会長	沖村 武志	(欠席)	
		特定非営利活動法人 黒部まちづくり協議会ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		公募委員	中谷 靖子	本人出席	
	交通有識者	前富山ライトレール株式会社代表取締役社長	根塚 俊彦	本人出席	座長
	政策支援アドバイザー	京都大学大学院工学研究科教授	中川 大	本人出席	
	その他の当該市町村が必要と認める者	北陸信越運輸局企画観光部交通企画課長	水野 真司	係長 長谷川 寛和	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	田口 久美	本人出席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局首席運輸企画専門官	坂本 克彦	首席運輸企画専門官 皆川 明夫	
		富山県知事政策局総合交通政策室課長	今村 慶展	本人出席	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	専務理事 石川 幹夫	
		宇奈月町商工会	—	—	
一般社団法人 黒部・宇奈月温泉観光局代表理事		川端 康夫	局長 山本 芳夫		
YKK株式会社 副社長黒部事業所長		佐々 裕成	総務広報グループ長 小林 聖子		
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	土肥 克彦	(欠席)			
第8条	関係者	魚津市商工観光課主幹	宮野 司憲	本人出席	
		入善町農水商工課課長代理	田中 良一	本人出席	
		朝日町商工観光課長	大井 幸司	本人出席	
		魚津タクシー協会代表	佐々木 祐司	本人出席	

■事務局：黒部市都市建設部

朝倉部長、御田課長、高野主幹、島津主幹
(株)新日本コンサルタント 大門、勝亦、道木

会長挨拶（堀内市長）

おはようございます。本日は第9回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催させていただきましたところ、委員の皆様方には大変ご多用の中ご出席を賜り、まことにありがとうございます。また、黒部市の公共交通を担っていただいている富山地方鉄道さん、黒部市タクシー協会さんには日頃より安全かつ円滑に運行いただいているだけでなく、日々の乗者人数の報告など、黒部市の公共交通の活性化にご協力いただいております、大変感謝申し上げます。

さて、先月6月7日には、北陸新幹線新駅の名称が「黒部宇奈月温泉駅」と発表され、日本で一番長い駅名ということで話題となったところです。駅名を書くのに多少の面倒なところがありますが、名前が長いことがデメリットになるようなことはないと考えています。この駅を皆さんとともに、全国にPRしていきたいと考えています。

さらに7月3日には、新幹線効果を最大限に高めるための実行組織として、「新幹線駅開業黒部市民会議」が、黒部市商工会議所さんを中心に設立されたところです。新幹線開業に向けた機運醸成、開業時のイベントなど、いろいろな団体が一丸となって一体的に取り組んでいく必要があるということで立ち上げました。行政はもとより、いろいろな団体が連携しながら、開業をしっかりと活かしていきたいと考えています。

市のカウントダウンホームページでは、平成26年度末開業予定として残り620日となっていますが、3月中旬の開業ということであれば、600日を切っている状況です。いよいよ差し迫ってきたなという印象であり、準備にしっかりと取り組んでまいりたい。

今年の12月初旬には、冬期間の試験走行が長野駅から黒部宇奈月温泉駅間で行われるとのこと。試験車両であるが富山に始めて新幹線が入る機会であり、歓迎イベント等について協議を進めています。印象に残る一步にしていきたいと考えています。

なお、本協議会の設立時から参加され、地鉄新駅の推進に大きく尽力いただいた川岸富山地方鉄道社長さんが5月10日に急逝されましたことは、大変残念なことであり、川岸さんの思いをこの会議の中で成就していきたいという気持ちです。こころからご冥福をお祈り申し上げますとともに、引き続き富山地方鉄道さんにはご協力を賜りたいと思います。

また、本協議会の座長には、根塚さんに引き続きお願いしたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

経過報告

- 事務局から第8回（H25.3.25）以降の取り組み状況について説明（資料1）

議案

○根塚座長

新幹線開通は大きなインパクトとなる。開業までにしっかりとした受け皿、黒部を更にアピールできる公共交通機関を築いていきたい。にいかわ観光周遊バスの社会実験については、新聞でも取り上げられた。当地の観光を再発見・PRしていくよい機会だと思う。ぜひ、皆さんからのご意見をいただきたい。

■議案第3号 委員の変更について

- 事務局から2名の変更について報告、承認される。

○大橋委員（羽柴委員の代理）

観光の観点から、例えばスイスなどでは、鉄道駅からバスに乗り換え、ストレスなく目的地に行けるよう工夫されている。黒部でも新幹線開通で、そのような環境が整っていけばよいと思う。また、宇奈月温泉街では、ガソリン車の進入制限などを住民の総意で進めており、これらの点に関しても協議をお願いしたいと思う。

■議案第4号 平成25年度補正予算について

- 事務局から事業費250万円（国100%補助）の追加について報告、承認される。

協議事項

■協議第1号 黒部宇奈月温泉駅からのアクセス交通について（資料2）

- 事務局から事業の目的や検討の方向性について説明。

○根塚座長

前回では、各駅への交通アクセスを検討したが、ルートを絞り込んだ中で、実際のニーズや必要なルート、またサービス施設等を含めて、基本的な調査を行うものとなる。地域における公共交通の必要性をしっかりと踏まえながら、調査を進めていただきたい。

○中川委員

調査することは結構であるが、具体的に検討していくには、需要予測などが必要であり、そのためには新幹線のダイヤや並行在来線のダイヤが分からないと、具体的な分析ができず、想定ばかりになってしまう。公共交通の需要というのは、ダイヤに対して生じるものである。JR、在来線の各社に対しては、自分たちだけの話ということではなく、地域の交通と接続することが極めて重要であり、それにより需要も大きく変わってくることを伝えながら、なるべく早くダイヤに関する情報を内々でも出してもらおうよう働きかけながら進めていくことが大切である。便利なダイヤを構築することで利用も高まる。入善町方面は乗り換えがどうしても必要であり、各方面と協力しながら進めいくことが重要である。

○事務局

ダイヤに関して、JR側からは平成26年の秋（開業半年前）までには決定したいとの話を聞いている。まちの観光PR等を考慮しても、できるだけ早く決めてもらうよう要望を出しているところである。

○根塚座長

どうしても不確定な要素が多いものではあるが、利用者の視点を考慮して、JR側、並行在来線側には、早め早めの対応をお願いしたいところである。

○中川委員

地域交通あつての幹線交通であるということを、機会あるごとに我々からもJR側に伝えていきたいと思う。

○中谷委員

デマンドタクシーを使っている者であるが、現在でもJRのダイヤとリンクしていない面がある。今後、新幹線が開業していく中で、デマンドタクシーはどのようになっていくのか気がかりである。

○事務局

デマンド交通については、年一回の利用調査に基づき、利用者の多い時間帯を中心に運行していくという基本方針で取り組んでいる。新幹線開業で、人の動きにも変化が生じると思われ、それに適切に対応していく考えである。6月に改定をし、利用者の多い時間帯に車両を集中するようにしてきたが、その分、一部においては不便となった方もあり、そのような方々のフォローもしながら、最大公約数を求めて利便性を高めていきたいと考えている。

○根塚座長

関係機関との連絡を密にしながら、適切なダイヤ・運行の検討をお願いしたいと思う。

■議案第2号 にかわ観光地周遊バス運行社会実験について（資料3）

- 事務局から目的、事業の概要等について説明。
- 施設の受け入れ体制に課題あり、対象施設との調整が必要な面がある。
- 時刻表だけを見て行動するには難しく、示し方に工夫が必要であり、モデルコースの設定を検討している。どうPRするかにかかっている。黒部・宇奈月温泉観光局さんと協力しながら雑誌等でのPRに努めていく。

○根塚座長

県内だけでなく全国に、積極的にPRすることが大切である。魅力的なルートを示してもらいたい。

○小林委員（佐々委員の代理）

YKK センターパークの開園時間の問題点については、事前に話をもらっており、開園時間については協力していきたい。運営会社のスケジュールと調整中の状況である。会社としては、このモデルコースの取り組みに支障がでないよう努めていきたいと考えている。

■議案第3号 地鉄新駅について

- 事務局から事業費、交付決定の経緯、整備スケジュール等について説明。平成25年度事業は軌道修正が主となる。（別紙1）
- 地鉄利用促進策に関しては、コミュニティタクシー、路線バス等の地鉄電車との接続を基本に進めている。その他、魅力アップ事業（観光列車、商品開発等）を、沿線市町村が連携して取り組みを進める。
- 駅名の決定主体は地方鉄道にあり、協議会としては、利用者にとっての分かりやすさ・利用しやすさを要望するものである。

○根塚座長

地鉄新駅は新幹線と接続し、新幹線駅と合わせて拠点ともなることから、アクセスのしやすさが求められる。そのためにはハードだけでなくソフトも重要となる。

○稲田委員

地鉄新駅の駅名は難しい状況である。新幹線の黒部宇奈月温泉駅という名称であるが、類似の名称が沿線各駅に既にあり、沿線の利用者の方々にも混乱がないよう配慮したいと考えている。また、観光客には、乗り換えしやすい・分かりやすいと思われるように、地鉄駅と新幹線駅が一体と感じられる駅名を考えていきたいと思っている。各方面の営業活動もあり、できるだけ早く決めていきたいと思っている。公募は考えていない。新駅整備のスケジュールであるが、駅設置の認可申請をまもなく出す予定であり、認可には2ヶ月かかる見通しである。その後、駅整備の認可を申請する予定である。ほぼ予定どおりに進んでいる。工事が見えてくるのは冬場となると思う。

○中川委員

原則としては新幹線と同じ名前とするのが一般的には望ましいといわれているが、今回は既存駅との関係などで悩ましいところなのであろう。インターネットの時刻検索などでは同名称ならば路線図上は同一表示となって、結節点としてはっきり表現されるというメリット（分かりやすさ）はある。新幹線との結節を示したいということであるならば、新幹線を含む名称とするような考え方もある。新幹線と結節していることが直感的に分かるようにすることが大切であろう。いずれにしても、乗り換えやすさ・分かりやすさを示すことはとても重要である。

○根塚座長

本日の協議全体を通じてとなるが、いろいろな調査を進めていく中で、事務局には途中途中の段階で情報提供をお願いしたい。

○事務局

途中経過報告に関しては、会議なり資料配布なり対応を検討していきます。

閉会

○堀内会長（市長）

本日の協議には、幾つかポイントがあった。市としては、県、JR に対して、基本概要についてはなるべく早く知らせてくれるようお願いをしているところである。最終的なものは間際となるのは致し方ない面はあるが、基本概要-概ねの本数や時間帯などについては、なるべく早く示していただかないと、調査もイメージできないものになってしまう。

また、宇奈月商工振興会では、電気自動車プロジェクトや再生エネルギーなど、環境に対する取り組みやまちづくりを活かしたような公共交通のあり方についても検討していきたいと思う。

周遊バスについては、本地域では初めての取り組みとなる。テスト走行時から、関係者みんなで作っていく取り組みにしたいと思う。新幹線開業後には、週 6 日運行できるようにもしたいと考えている。

駅名については、電鉄黒部駅もかつて名称を変更したなど、いろいろな経緯もあり、また既存駅が 15 もあり、いろいろと難しい面がある。最終的には地鉄の判断となるが、地元では「桜井」という地名に愛着もあるようだ。新幹線整備が早まっていることもあり、地鉄さんにも早めの対応をお願いしたいところである。今後の PR 等を進めていきたい。

本日は、暑い中での長時間の協議に感謝申し上げます。ありがとうございました。